

## 読図山行① 丹沢：柵立尾根

- ◆日程 2016年10月15日(土)
- ◆メンバー L：小林、須田健、牛込、富田、小山田
- ◆天候 快晴



地図と地形の双方を照合する事、それには常に地図とコンパスが出せる工夫、地形を良く観察する、面倒がらず照合の回数を重ねて自分なりの感覚を養う事、そして山行前の事前準備が重要である事を10月の机上講習で強調した。その実践の山行である。

宮ヶ瀬で降りたのは我々の5名のみだった。この近辺は表丹沢のように人が多くは無く楽しめる場所である。早速、地図とコンパスを頼りに林道を探す。金沢橋(かねざわ)の取り付きを確認して牛込さん、富田さん、小山田さん3人のトップ交替で現在位置を確認しながら登る。植林帯なので何回か鹿よけ柵を越える。標高900mの急登を登ると自然林となり、美しい樹林帯で楽しめる。全員で現在位置を確認しながら「頭の体操」である。1043m標高点の誰も居ない自然の中で昼食タイムとした。1200m窪地は等高線ではっきりと解る面白い地形、暫くで本間の頭の山頂で登山道に出た。

下山は対岸の登ってきた尾根を見て、昼食の1043m点、1000mへの急坂や849mピークと特定しながら下った。登山道に出た喜びか若者4名は脱兎の如くどンドンと先に下って行ってしまった。高畑山手前で合流し次の課題の春ノ木丸への入り口探しとなる。今回のコースで難しいのは568m標高点から春ノ木丸への入り口尾根の特定、私のやり方を説明した。春ノ木丸、ハイキング道に出て無事に宮ヶ瀬に戻った。

当初、予定どおりにトレースするのは難しいと思っていたが全員、地図片手にしっかりと歩き予定のルートをこなせたのは良かった。空気も爽やかで快適な山行だった。現在位置を特定する事で登山道の無い道を歩く山の楽しさの一端が理解して頂けた事と思う。

CT：宮ヶ瀬 7:55-532m 送電塔 9:30/9:45-1043m 標高点昼食 11:30/12:22  
-本間の頭 13:15/13:25-春ノ木丸 15:45/16:00-宮ヶ瀬 16:23

(記：小林)

参加者のコメントを紹介する。

- ①地図、地形を読む事で理解できた内容は
- ②今後、山行で得た事を生かすには？
- ③その他

<牛込>

- ①地図の現在地から次の目的地をコンパスの縁に合わせ、コンパスの赤い矢印を磁北線合わせる。後はコンパスだけ用いて、赤い矢印をコンパスの針に合わせる事で、目的地の方向が確認可能となる。これらが身に付いた気がすると共に道迷いの不安が少し解消される感じがした。地形図の 10m 間隔の等高線で、実際の地形の急登・緩斜面・鞍部が少しイメージできるようになった。しかし春ノ木丸へ行く途中の場所での読図は、経験積まないと難しい。
- ②地図とコンパスを使い地形を読む楽しさも盛り込みたいと思う。
- ③机上の学習ではなかなか身に付かない、やはり実践あるのみだと思った。

<富田>

- ①地形図とコンパスを用いることにより一般登山道ではないところでも現在地を予測する事が出来る事が判った。
- ②山に登る前にあらかじめ地図、地形図を読みルートを読み机上登山することにより道迷いなどあった場合でもより安全なルートを選べるようになると感じた。
- ③普段とは違う地図を読むのを目的とした登山もまたいろいろ考えさせられて面白いと思う。

<小山田>

- ①地図を見るのではなく読む、道を辿るのではなくて地形を読みながら周りとは照らし合わせるといのがどういうことなのか、やっとハッキリわかった気がする。現在、自分がどこにいるか、周りをよく見ることの大切さを感じた。これから行こうとしている先の地形を読み、地形を想像してから歩いて行くことで、初めての道でも不安が減り、道標に頼らずとも正しい方向に進んでいけるということがよくわかった。
- ②今後は簡単などころでも、常に地図を読みながら歩き、早く地形図に慣れて、自在に歩き回れるようにしていきたいと思う。
- ③机上で本や地図を見てわかったつもりになっていても、現地で地形と照らし合わせ、実際に身体で感じながら歩くのは素晴らしい経験だった。歩くのに精一杯になってしまうと周りを観察できないので、余裕が大切だとつくづく感じた。